

の展望と批判である。中国での暦法観、中国とバビロンその他の西方文明との交渉等についても随所に暗示的の記述が含まれ、174頁にわたる第1部から読者を第2部西方の天文学へ導く。

第2部では唐代におけるインド天文学にはじまり、イスラム天文学を媒介としたギリシア天文学の知識の紹介という事実を、主要媒介者であった占星術を中心として論じてある。第5節にはイスラムの天文台と観測機械についての記載があり、9世紀のバグダードの天文台から、マラガ、サマルカンド、そしてデリー天文台に至る諸天文台の興味ある論述が見られる。

第3部は天文計算法と題され、中国流の太陽、月の位置計算法、置閏法、暦元と積年、二至の測定、消長法、天体位置の表示法つまり球面座標に関する問題、定朔望時刻の計算法、日月食予報の問題等が検討されている。

中国での特異な黄道座標である極黄経、極黄緯は著者が石氏星経に記された黄道内外度の値の研究によってそのような座標が使用されていたことを確認したもので、これについては、この第3部のほかに、第1部中の石氏星経の吟味の項にも、この問題の詳細な議論が見られる。

第3部には、数理的な部分がまとめられているが、その内容の性質上、著者が昭和19年に出版された唐唐暦法史の研究の一部が引用されており、著者の旧論文だけによるものではない。しかし現在入手し難いこの著者の旧著の要約があることは今の読者にとって却って便利であろう。

最後に付録として1) 暦法の撰者と施行年次、2) 諸暦の基本常数(太陽年と朔望月の長さ)の一覧表がある。

以上の3部で著者は中国暦法の内容とその発展、西方天文学輸入に対する反応等を論じておられるが、紙面の関係で内容に立ち入って紹介することができず残念である。本書をつらぬいている藪内氏の思想は中国では2000年以前に特色あるパターンが確立され、中国人は一つの文明が到達し得る限界まで天文学を推しすすめた。しかし政治に隷属した中国天文暦学からはついに近代天文学は生まれなかったというものであろう。傾聴すべきであり、われら自身についても考えるべき問題を含んでいよう。

本書を読み藪内氏個人の研究がこれほど体系的に進められていたことに今さらながら驚嘆と畏敬の念を新たにす。本書によって藪内氏は自身の研究王国の領域とその内部構成を明らかにされたといえよう。本学会員諸氏に一読をすすめ、藪内氏がうち立てられたその研究王国のみごとな体系化による学恩に感謝したい。

(広瀬秀雄)

## 学会だより

### ◇東洋レーヨン科学技術賞および科学技術研究助成候補者推薦について

標記の件について東洋レーヨン科学振興会より学会理事長宛に推薦方の依頼状が参っております。本学会としては該当者を広く求めておりますので、適当な方法で自薦もしくは他薦を理事長宛御連絡下さい。用紙は庶務理事の所にあります。学会としての締切りは10月末日。

#### ◇科学技術賞

対象——学術上の業績が顕著なもの、学術上の重要な発見をしたもの、重要な発明をなし、その効果が大きいもの、または技術上重要な問題を解決したものの。

賞——本賞・金メダル、副賞・250万円

候補者推薦件数——1学(協会)から2件以内。

#### ◇研究助成

対象——基礎的な研究に従事し、その研究の成果が科学技術の進歩、発展に貢献するところ大と考えられる研究を行なっている個人またはグループ。

研究助成金——1件1000万円程度。

候補者推薦件数——1学(協会)から3名以内

◇東京天文台公開 恒例の東京天文台公開(本会后援)は来る10月18日(土)午後2時から8時まで行なわれることになりました。65cm赤道儀、写真天頂筒、子午環、単色太陽写真儀、電波望遠鏡等が公開されるほか、資料の展示、映画などが行なわれる予定です。なお雨天の際は中止されます。

昭和44年9月20日

印刷発行

定価125円

編集兼発行人 東京都三鷹市東京天文台内

印刷所 東京都文京区水道2-7-5

発行所 東京都三鷹市東京天文台内

電話武蔵野45局(0422-45)1959

広瀬秀雄

啓文堂松本印刷

社団法人日本天文学会

振替口座東京13595